

## ケーススタディ地区の取組概要

地区名 神石高原町

局署名 近畿中国局／広島署・広島北部署

地域課題 小規模分散型の森林の集約団地化による効率的な木材生産や森林整備、再造林の低コスト化

### 30年度実績

#### 取組内容

①森林共同施業団地の設定等

・国有林、県営林、町行造林等の公有林を軸とした新たな森林共同施業団地候補地(新免(シンメン)地区)の現地調査を実施

・国有林と民有林の森林作業道を接続し、搬出困難であった民有林材525m<sup>3</sup>の効率的な搬出を確保するとともに、搬出コスト低減に寄与する土場の共有を実施

②知識や技術の普及

・人工林伐採跡地における天然更新状況の現地検討を実施

③公益的機能維持増進協定に基づく森林整備

・国有林の事業と併せて介在民有林(0.79ha)の森林整備(間伐)を実施するとともに、間伐実施前後の効果検証のため、状況把握調査を実施

現地検討会	3回(民国連携(国5名,民13名)、森林施業(国2名,民10名))
勉強会	-
会議	2回
打合せ	1回

### 今後の予定

①森林共同施業団地等

・国有林と公有林を軸とした新たな森林共同施業団地候補地(相渡(アイド)・古川(フルカワ)地区)の現地調査

・団地候補地とした新免(シンメン)地区の事業計画について、関係方面への事前調整を継続して実施するとともに、調整が整った段階で、順次協定を締結

②知識や技術の普及

・ドローンを活用したレーザー計測により地形図作成等の勉強会を開催



新たな森林共同施業団地候補地の現地調査(H30.9) 人工林伐採跡地の天然更新状況の現地検討(H30.10)

## <ケーススタディ地区の取組概要>

# 小規模分散型の森林の集約団地化による効率的な木材生産や森林整備、再造林の低コスト化

## <地区名>

広島県 神石高原町地区

## <局・署名>

近畿中国森林管理局・広島北部森林管理署、  
広島森林管理署

## <目的と背景>

当地域の民有林の特徴として、①人工林の所有形態が小規模零細であること、②過疎・高齢化による担い手不足、③木材価格の低迷など林業の採算性の悪化による森林所有者の林業意欲の低下により、手入れ不足の森林が増加しています。

そのため、小規模分散型の森林を集約・団地化して、路網整備と高性能林業機械を組み合わせた作業システムの導入により、効率的な木材生産、森林整備の推進を図る必要があります。

さらには、皆伐後の再造林について、木材収入に対する造林コストの掛かり増しなどの理由から未実施の箇所が多く、持続可能な森林経営の実現には、再造林にかかるコスト低減を図ることが喫緊の課題と言えます。



## <連携体制>

ケーススタディ地区支援チーム  
広島県、広島北部森林管理署、広島森林管理署、  
神石高原町、神石郡森林組合

## <平成30年度の取組概要>

【関係者との会議（2回開催）】

実施年月日：平成30年9月6日

平成31年3月7日

場 所：三和協働支援センター

出席者：広島県、神石高原町、神石郡森林組合 外

【新たなる森林共同施業団地候補の現地調査】

● 国有林、県営林、町行造林の路網接続について現地調査

実施年月日：平成30年5月15日

平成30年9月6日

場 所：座床山（ごとこやま）国有林（神石高原町）外

出席者：広島県、神石高原町、神石郡森林組合

【人工林伐採跡地における天然更新状況の現地検討】

● 町担当者との勉強会

実施年月日：平成30年10月30日

場 所：神石高原町相渡（あいど）ほか1（民有林伐採跡地）

出席者：広島県、神石高原町、神石郡森林組合

【福永（ふくなが）区域森林共同施業団地の取組】

● 事業実績（民国総数）

搬出間伐33ha、利用材積2,551m<sup>3</sup>、

森林作業道6,787m開設

国有林土場の共同使用

## 取組実績と今後の予定

広島県等と連携したケーススタディ地区支援チームにより、森林技術等の普及のために、現地検討会を開催して、情報共有や指導・助言等様々な支援を行っています。

### ケーススタディ地区の取組

#### ●第1回ケーススタディ地区の打合せを開催

平成30年9月6日、広島県、神石高原町、神石郡森林組合、広島北部森林管理署の関係者13名が出席し、三和協働支援センターの会議室（神石高原町）において、「第1回ケーススタディ地区打合せ」を開催しました。

当日は、広島県の担当者から新たな森林共同施業団地の候補地についての説明が行われ、新免（しんめん）地区において県営林、町行造林、私有林、座床山（ざとこやま）国有林（神石高原町）による新たな団地化の設定に向けた取組を優先していくことが確認されました。午後からは、森林共同施業団地候補地の町行造林に場所を移動し、県営林との位置、地形、林況、作業道ルート等について確認しました。

広島北部署は、今後も同地区の取組を積極的に進めていきます。



#### ●人工林伐採跡地における天然更新状況の現地検討会の開催

平成30年10月30日、人工林伐採跡地において天然更新状況の現地検討会を開催しました。

広島県内では戦後植栽された人工林が森林資源として充実しており、今後主伐が増加することが予測されます。

主伐の実施に当たっては、森林所有者等が市町村長に必要な届出を行うとともに、伐採後の造林に係る報告を行うことになっています。

伐採後の造林の方法として、天然更新を選択した箇所については5年以内に市町村が確認することとなっています。

天然更新の確認は、「広島県天然更新完了基準」に基づいて実施することとなっていますが、技術的な知見が十分でないため、判断するのが難しい状況です。

そのため、神石高原町内で人工林伐跡の天然更新を予定した箇所で、天然更新完了の見極めに関する検討会を開催しました。

出席した町担当者からは、「天然更新の完了について理解することができた」、との声をいただいたところです。

#### <今後の取り組み>

- ・国有林と公有林を基軸とした森林共同施業団地の設定
- ・ドローンによるレーザー地形調査の現地検討 外